

御所市内におけるバス交通調査

【一次報告】

1. コミュニティバスの利用状況

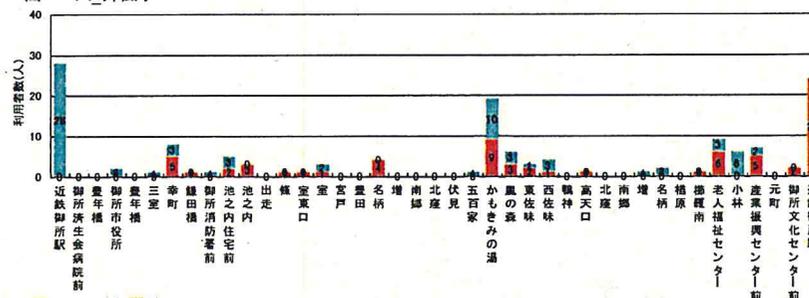
① 調査結果

- 西コース59人/日、東コース34人/日で、計93人/日と利用者が少ない。
※土曜、日曜、水曜の各1日 (H26.1調査) の全便調査結果の平均 (両方向計)。
- 前回調査の98人/日と比べても、減少。
※前回調査は、日曜と水曜の2日間調査の平均。
- 1便あたり、西コース9.8人/便、東コース5.7人/便と、車両座席数に大きく余裕あり。
- 高齢者の女性の利用割合が高い (高齢者割合63%、女性73%)。
※年齢・性別は、調査員の目視により推定。
- 乗降の多いバス停は、近鉄御所駅 (31%)、かもきみの湯 (10%)、老人福祉センター (6%)、西佐味 (4%)、池之内住宅前 (3%)、小林 (3%) であり、近鉄御所駅およびかもきみの湯へ利用が集中。
※%は、全乗降数に対する割合。
- 乗降が1人もなかったバス停は、西コース5停留所 (豊年橋、出走、鴨神、楢原、元町)、東コース12停留所 (新田、鳥井戸、市民運動公園前、水泥、川合、奉膳、古瀬中橋、大口峠、御所東高校前、出屋敷、柳原、今城)
※3日間のうち。

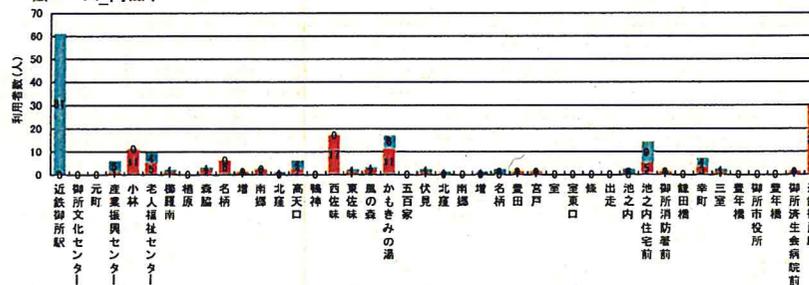
② 考察

- 1 利用は低水準で、2年前の前回調査 (H24.2) と比べても、減少傾向に歯止めがかかっていない。
- 2 1便あたりの利用者数は、マイクロバス以下の水準であり、特に東コースは、過剰な車両サイズ。
- 3 利用は、市内各地から「近鉄御所駅」、あるいは市内各地から「かもきみの湯」という固定された利用形態が多く、市内全域を走行している経路設定の考え方と相反する。
- 4 乗降が1人もなかったバス停が計17停留所あり、新田や柳原などコース端部のバス停も多く含まれる。
- 5 路線バスに比べて、高齢者の利用割合が高く、コミュニティバスのコンセプトに合致した層の利用がなされている。

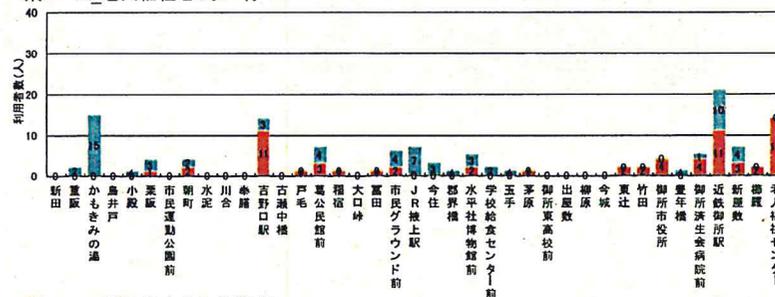
西コース_外回り



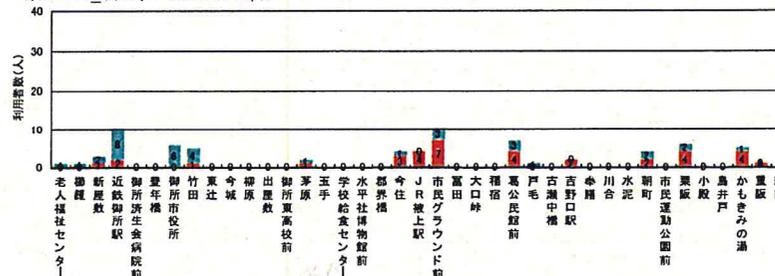
西コース_内回り



東コース_老人福祉センター行



東コース_新田(かもきみの湯)行



※土曜、日曜、水曜の名 (26.1調査) の全便調査結果の合計値。(青:乗車、赤:降車)

2. 路線バスの利用状況

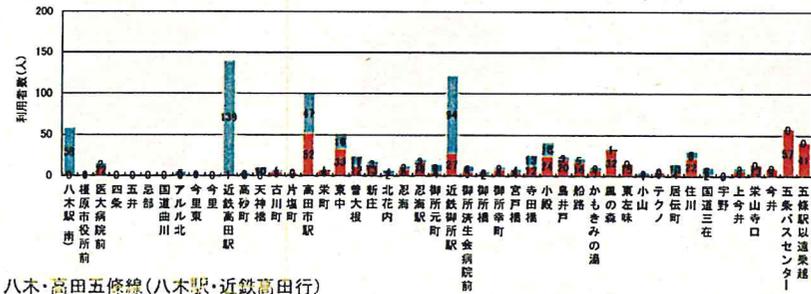
① 調査結果

- 八木・高田五條線(御所元町～東佐見間乗降) 265人/日、八木御所線(近鉄御所駅～郡界橋間乗降) 40人/日、葛城ロープウェイ線26人/日
 ※土曜、日曜、水曜の各1日(H26.1調査)の全便調査結果の平均。御所市内のみのバス停の乗降数。
- 1便あたり、八木・高田五條線8.5人/便(11.5人/便)、八木御所線2.0人/便(3.7人/便)、葛城ロープウェイ線1.3人/便(2.6人/便)と低水準。
 ※カッコ内は、御所市外の計測区間の乗降数を含めた値。
- 高齢者の利用割合は低い(高齢者割合27%、成人58%、女性62%)。
 ※年齢・性別は、調査員の目視により推定。調査区間での集計値。
- 市内の乗降の多いバス停は、八木・高田五條線で、近鉄御所駅(37%)、小殿(15%)、寺田橋(8%)、かもきみの湯(7%)で、近鉄御所駅の利用が多い。市外を含めると、近鉄高田駅、高田市駅、八木駅、五條バスセンターの乗降が多い一方で、アルル北や医大病院前の乗降は少ない。八木御所線で、郡界橋(45%)、近鉄御所駅(17%)、芽原(8%)、馬橋(7%)で、市境界のバス停利用が多い。市外を含めると、檀原神宮駅西口の利用が多い。葛城ロープウェイ線で、近鉄御所駅(50%)、葛城ロープウェイ前(40%)であり、ほぼこの2バス停間での移動である。
 ※%は、各路線の全乗降数に対する割合。
- 乗降が1人もなかったバス停は、葛城ロープウェイ線の大正農協と小林口。

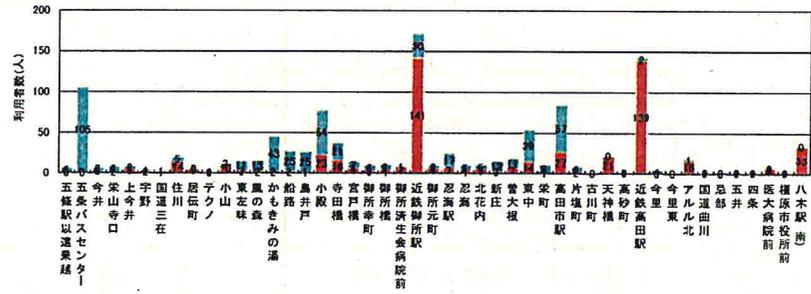
② 考察

- 1 八木御所線や葛城ロープウェイ線の利用者数は、危機的水準。
- 2 アルル北や医大病院前など、他市の買い物および通院施設の乗降は少ない。
- 3 葛城ロープウェイ線は、ほとんど起終点での乗降であり、中間のバス停での利用はほとんどない。

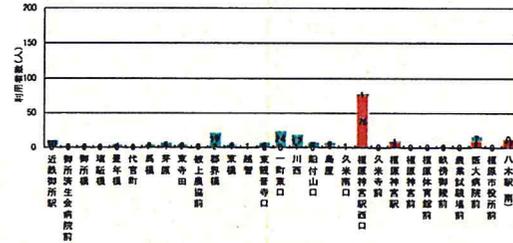
八木・高田五條線(五條バスセンター行)



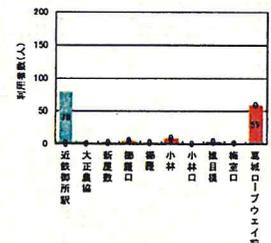
八木・高田五條線(八木駅・近鉄高田行)



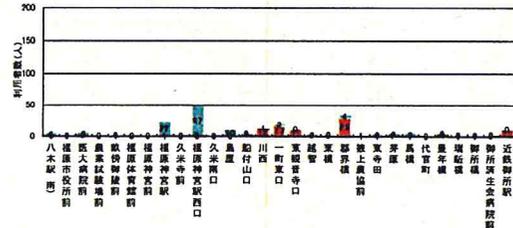
八木御所線(八木駅行)



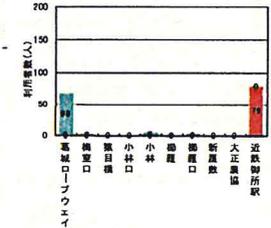
葛城ロープウェイ線(葛城ロープウェイ行)



八木御所線(近鉄御所駅行)



葛城ロープウェイ線(近鉄御所駅行)



※土曜、日曜、水曜の各1日(H26.1調査)の全便調査結果の合計値。(青:乗車、赤:降車)

3. バス利用ニーズ

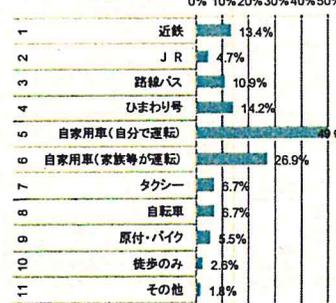
① 調査結果

- 御所市内全域を対象にバスに関するアンケートを実施し、737部回収。
- 回答者属性：女性68%、平均年齢64歳(65歳以上55%)、無職37%・家事専業30%
- 平日の外出先：御所市内69%・橿原市11%、買い物目的63%・通院15%、外出先まで平均30分、交通手段は自家用車77%・ひまわり号14%・路線バス11%。
※交通手段のみ、複数回答。
- 休日の外出先：御所市内60%・橿原市18%、買い物目的80%、外出先まで平均33分、交通手段は自家用車77%・ひまわり号12%・路線バス7%。
- 普段バス利用する人：29%（路線バス14%、ひまわり号15%）。平均4.5回/月。買い物目的47%・通院29%。
- バスの満足度：
高い→運賃、定時運行、車両の乗りやすさ、運転士のマナー
低い→運行頻度、運行時間帯、バス停施設（ベンチや屋根）
- バスの代替交通手段：なし58%
- バスを利用しない理由：便数が少ない46%、時間がかかる44%、路線がない22%。
- バス停までの距離：利用したい距離 徒歩5分59%。現状平均7.6分（5分まで31%）。
- 新設バス停によるバス利用増加意向：増加24%。
- バス維持のための年間財政投資：800～1,000万円 45%、1,000万円より増 24%。

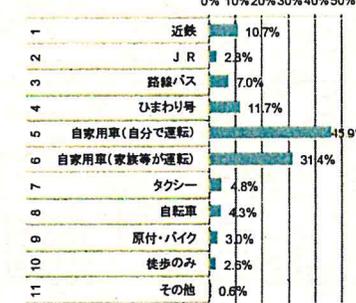
② 考察

- 1 半数以上が高齢者の回答で、高齢者のバス交通に対する関心は高い。
- 2 買い物目的での移動が多く、自動車での移動が8割程度と多い。一方で、ひまわり号の利用も一定ある。
- 3 バスの運行サービス水準に対する満足度が低い。
- 4 バスの代替機能のない人は、6割程度あり、バス維持のための投資は、現状程度で理解のある人が半数を占める。
- 5 利用したいと思うバス停までの距離に、現状バス停がない人が比較的ある。

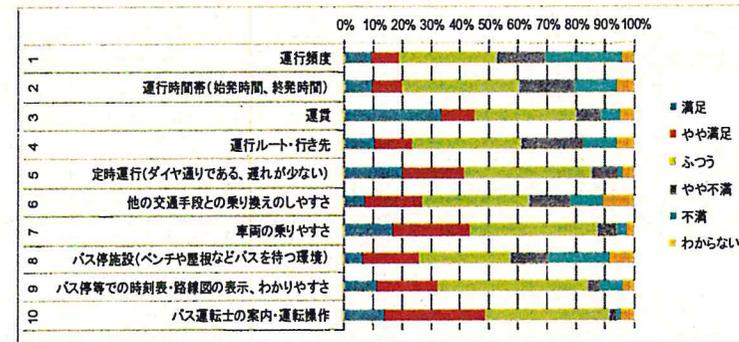
外出交通手段(平日)



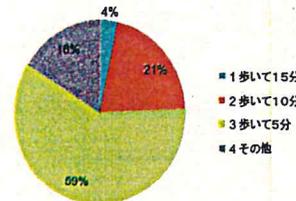
(休日)



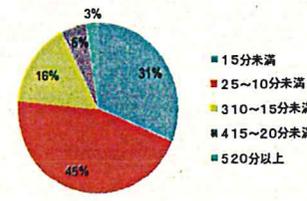
バスの利用者満足度



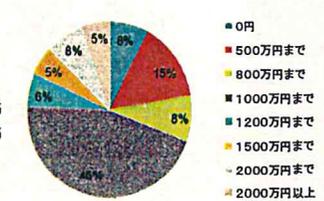
利用したいバス停までの距離



現状のバス停までの距離



希望財政投資金額



※土曜、日曜、水曜の各26.1調査の全体的調査結果の合計値。(青:乗車、赤:降車)

